

平成26年5月16日

平成24年度建設副産物実態調査結果（中部地方版）

修正のお知らせ

標記において、修正がございますのでお知らせ致します。

ページ：参考1-5、参考1-9

1. 参考1-5

【修正前】

(2) 利用土砂の建設発生土利用率

- 利用土砂の建設発生土利用率は、平成14年度以降減少傾向にあったが、平成24年度は大幅に増加した。

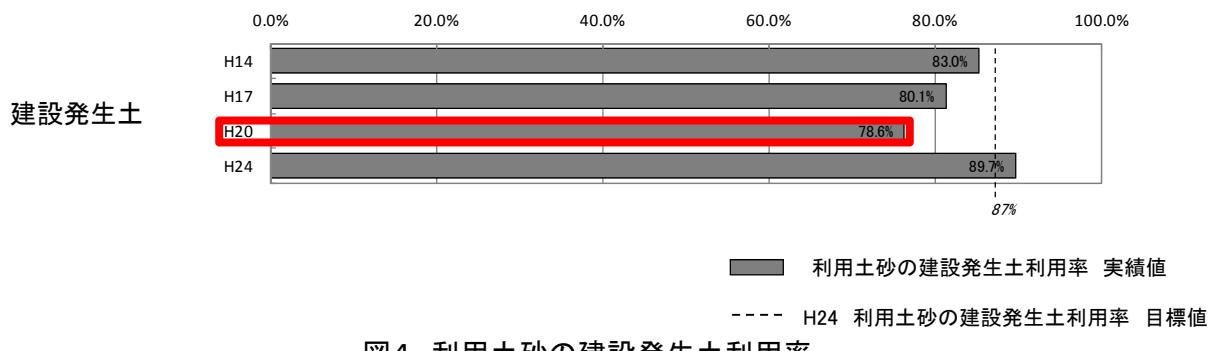


図4. 利用土砂の建設発生土利用率

【修正後】

(2) 利用土砂の建設発生土利用率

- 利用土砂の建設発生土利用率は、平成14年度以降減少傾向にあったが、平成24年度は大幅に増加した。

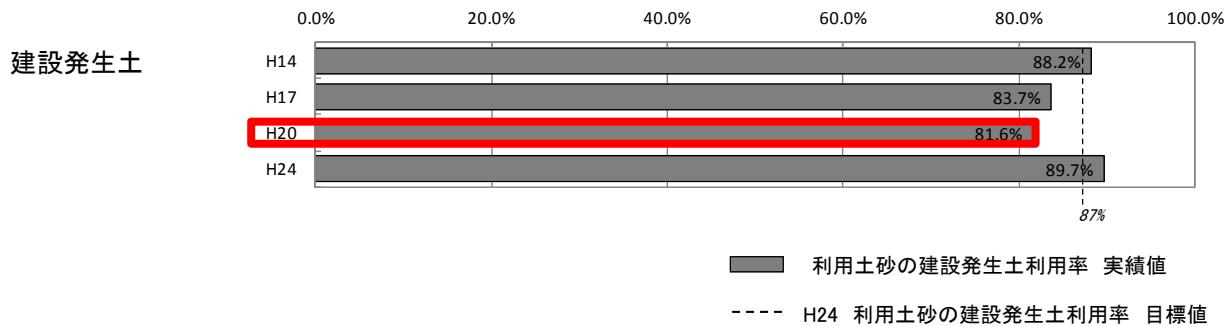


図4. 利用土砂の建設発生土利用率

2. 参考 1-9

【修正前】

4. 地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表5. 県別の建設副産物再資源化等状況

(単位: %)

	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	中部	全国
アスファルト・コンクリート塊	100.0	100.0	99.8	99.9	99.9	99.5
	(99.3)	(99.7)	(99.0)	(94.6)	(98.6)	(98.4)
コンクリート塊	100.0	99.9	99.6	99.5	99.7	99.3
	(97.3)	(99.3)	(98.4)	(98.1)	(98.5)	(97.3)
建設発生木材(縮減除く)	94.6	93.3	94.5	91.3	93.6	89.2
	(81.0)	(79.3)	(83.9)	(78.7)	(81.6)	(80.3)
建設発生木材(縮減含む)	99.3	97.7	97.4	96.2	97.5	94.4
	(86.6)	(85.4)	(86.5)	(82.1)	(85.6)	(89.4)
建設汚泥(縮減含む)	88.9	90.9	97.8	89.5	95.1	85.0
	(91.8)	(78.3)	(96.2)	(92.3)	(92.7)	(85.1)
建設混合廃棄物排出量(万トン)	5.5	7.6	23.2	5.6	41.8	279.5
	(3.5)	(9.1)	(16.7)	(8.2)	(37.5)	(267.0)
建設廃棄物全体	98.5	98.1	97.8	96.3	97.7	96.0
	(95.1)	(95.5)	(95.0)	(91.3)	(94.7)	(93.7)
利用土砂の建設発生土利用率	85.1	93.6	87.4	91.3	89.7	88.3
	(84.7)	(72.0)	(70.3)	(82.6)	(77.3)	(78.6)

注)四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1 : 1段目は、平成24年度の値

2段目の()は、平成20年度の値

注2 : 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量) / 排出量
- ・建設発生木材(縮減除く)：
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量) / 排出量
- ・建設発生木材(縮減含む)：
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量 + 縮減量(焼却による減量化量)) / 排出量
- ・建設汚泥(縮減含む)：
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 縮減量(脱水等による減量化量)) / 排出量
- ・土砂(現場内利用含む)：
利用土砂の建設発生土利用率 = (土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量) / 土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量 + 現場内利用量である。

また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。

【修正後】

4. 地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表5. 県別の建設副産物再資源化等状況

(単位: %)

	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	中部	全国
アスファルト・コンクリート塊	100.0 (99.3)	100.0 (99.7)	99.8 (99.0)	99.9 (94.6)	99.9 (98.6)	99.5 (98.4)
コンクリート塊	100.0 (97.3)	99.9 (99.2)	99.6 (98.4)	99.5 (98.1)	99.7 (98.5)	99.3 (97.3)
建設発生木材 (縮減除く)	94.6 (81.0)	93.3 (79.3)	94.5 (83.9)	91.3 (78.7)	93.6 (81.6)	89.2 (80.3)
建設発生木材 (縮減含む)	99.3 (86.6)	97.7 (85.4)	97.4 (86.5)	96.2 (82.1)	97.5 (85.6)	94.4 (89.4)
建設汚泥 (縮減含む)	88.9 (91.8)	90.9 (78.3)	97.8 (96.2)	89.5 (92.3)	95.1 (92.7)	85.0 (85.1)
建設混合廃棄物排出量 (万トン)	5.5 (3.5)	7.6 (9.1)	23.2 (16.7)	5.6 (8.2)	41.8 (37.5)	279.5 (267.0)
建設廃棄物全体	98.5 (95.1)	98.1 (95.5)	97.8 (95.0)	96.3 (91.3)	97.7 (94.7)	96.0 (93.7)
利用土砂の建設発生土利用率	85.1 (81.2)	93.6 (82.6)	87.4 (82.8)	91.3 (78.0)	89.7 (81.6)	88.3 (78.6)

注)四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1 : 1段目は、平成24年度の値

2段目の()は、平成20年度の値

注2 : 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量) / 排出量
- 建設発生木材(縮減除く)：
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量) / 排出量
- 建設発生木材(縮減含む)：
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量 + 縮減量(焼却による減量化量)) / 排出量
- 建設汚泥(縮減含む)：
再資源化・縮減率 = (再使用量 + 再生利用量 + 縮減量(脱水等による減量化量)) / 排出量
- 土砂(現場内利用含む)：
利用土砂の建設発生土利用率 = (土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量) / 土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量 + 現場内利用量である。
また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。